

CELEBRATION OF GOLDEN WEDDING

手を携え 共に歩んだ50年

金婚おめでとうございます



今年、金婚の節目を迎えられたのは、昭和36年1月1日から12月31日までに婚姻届を出されたご夫婦です。

「第54回金婚夫婦祝福式典」(高知新聞社などの主催)に香南市から33組のご夫婦が申し込みをされ、9月1日(木)南国市で開催の式典で祝福を受けました。

掲載に了解くださいました30組のご夫婦を紹介させていただきます。また、同社が募集した「手紙・詩・エピソード」のエピソード部門に入賞された岡村民さん(野市町)の作品もあわせてご紹介いたします。



山本弘志・松枝さん(野市町)



山田猛・規子さん(野市町)



山崎安幸・和子さん(野市町)



山崎英男・敬子さん(野市町)



清藤孝禮・三枝さん(夜須町)



島村満智男・育子さん(夜須町)



小松健二・禎己さん(夜須町)



山脇隆行・紀美子さん(野市町)



白石彰・しげさん(香我美町)



小松功・敏子さん(香我美町)



宮本義彦・信子さん(赤岡町)



公文達郎・幸子さん(赤岡町)



濱田勝久・友子さん(夜須町)



立仙雄彦・美代子さん(夜須町)



松井清・美智子さん(夜須町)



岡村豊敏・美佐子さん(野市町)



岡村敦司・民さん(野市町)



衣斐長久・繁子さん(野市町)



市原良廣・良子さん(野市町)



田内啓介・時子さん(野市町)



小松明慶・粹子さん(野市町)



川島昌幸・道代さん(野市町)



金谷美雄・許江さん(野市町)



武内巖・慶子さん(野市町)



松山正・則子さん(野市町)



藤村義夫・美恵さん(野市町)



濱田一・光さん(野市町)



百田節・貴子さん(野市町)



橋田速生・絢子さん(野市町)



谷内正春・輝子さん(野市町)

『結婚50年に思う』 岡村民 (野市町・73歳)



高1のとき出会って、結婚するまで長い年月があった。同級生という感覚で、結婚の予感はないが、卒業して、それぞれの道を進み始めたころから文通が始まり、彼は京都、私は高知、今でも残る2人のたくさんの手紙には1冊の小説でもできそうな物語がある。

「やはり私は、あなたのそばにいたい、わがままになって、明るくなつて、それから、うんと幸せになる」——これは私。

「共働きだから、衣食住で放られてもかまわないが、精神的にほつたらかしのしないほしい」——これは彼。2人は結婚した。当時、児童福祉施設(昔の教護院)現在の児童自立支援施設)の住み込み勤務保母だった私と警察官の彼の結婚だった。それまで保母は結婚すれば退職していたが、私は職を続け、彼もちょうど少年係だったこともあって、施設で一緒に生活が許された。施設の少年たちは、彼のことを「刑事さん」と呼んで楽しんでた。施設で生まれ育った我が子3人も、幼いころ少年たちと母親を取り合いつつしていた日々をよく覚えている。彼には転勤があったが、私が施設にいたためいつも単身赴任であった。

退職後も、私は忙しく外をどび回っており、奥さま“ではなく、”外さま“と笑われている。その私の自由なわがままを認めてくれた彼のやさしさは、大学時代、京都や奈良の古寺で仏像を見ていた彼の横顔と重なっている。

他人だった2人が、こうして50年も連れ添っているという縁の不思議を感じるが、互いに相手を認め合い、許し合う生活をしてきたからだと思自負している。

わがままな妻と、実はそれを上手に操っている夫が、これからは元気で“人生の共働き”を続けていけたらいいなと思っている。